## 山形大学「つなぐちから。」 社会共創活動推進プロジェクト 実施報告書

模擬体験と障がい当事者から被災時の体験や今後起こりうる災害発生時の困りごとについて話を聞き、その後研修を受講した学生によるインクルーシブ防災啓発掲示物を作成した。 ・研修会(全4回)。 (1)避難所運営ゲーム体験(ファシリテーター:石垣和恵) (2)視覚障がい者のニーズを聴く(講師:相羽大輔 コーディネーター:池田彩乃) (3)運動障がい者のニーズを聴く(講師:迫田拳 コーディネーター:池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師:小松幸悦 コーディネーター: 油田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師:小松幸悦 コーディネーター: 有海順子)・インクルーシブ防災啓発用掲示物作成 研修会受講学生5名が研修内容を反映させて掲示物を作成し、小白川キャンパス構内に掲示した。 《実施した効果》 研修会は各回10-14名の参加者があった。学生が参加しやすい日時であることを優先し、平日の午後開催であったが、一般の方からも参加いただくことができ、関心が高い研修内容であったことを確認できた。第2回と第3回は、他県在住の講師からオンライン参加していただくことができ、専門的な研修を行うことができた。第4回は山形県在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、地元の防災の現状と課題を把握することができた。	報告者名	石垣和恵						
田体名および構成員   ※田体で活動を行った場合のみ記載 (機が足りない場合は打を追加して記入して ください。)   地域教育文化学部児童教育コース 准教授   地域教育文化学部児童教育コース 准教授   地域教育文化学部児童教育コース 准教授   地域教育文化学部児童教育コース 准教授   市海順子   障がい学生支援センター 准教授   神塚中で、	※団体で活動を行った場合のみ記載 (欄が足りない場合は行を追加して記入して	団体名 地域教育文化学部 石垣研究室						
図体名および構成員 ※団体で活動を行った場合のみ記載 (機が足りない場合は行き組加して記入してください。)  お動名  災害時要配慮者(児)のニーズを踏まえた防災教育の構築  連携して活動を行った ブラットフォーム加盟機関名		氏名	所属					
(歴史)ない場合は行を追加して記入して (ださい。) 有海順子 地域教育文化字部児童教育コース 准教授		石垣和恵	地域教育文化学部児童教育コース 准教授					
活動名  災害時要配應者(児)のニーズを踏まえた防災教育の構築  連携して活動を行った プラットフォーム加盟機関名  《活動内容》 本学学生と一般市民対象のインクルーシブ防災をテーマとする公開研修会を開催した。避難所運営 模擬体験と障がい当事者から被災時の体験や今後起こりうる災害発生時の困りごとについて話を聞き、その後研修を受講した学生によるインクルーシブ防災啓発掲示物を作成した。 ・研修会(全4回)。 (1)避難所運営ゲーム体験(ファシリテーター:石垣和恵) (2)視覚障がい者のニーズを聴く(講師:拍羽大輔 コーディネーター:池田彩乃) (3)運動障がい者のニーズを聴く(講師:泊却大輔 コーディネーター:池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師:中部大力・コーディネーター:地田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師・治田拳 コーディネーター:油田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師・治田拳 コーディネーター:地田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師・治田拳 コーディネーター:地田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師・か松幸悦 コーディネーター:市場順子)・インクルーシブ防災啓発用掲示物作成 研修会受講学生を名が研修内容を反映させて掲示物を作成し、小白川キャンパス構内に掲示した。 《実施した効果》 研修会会は各回 10 ~ 14名の参加者があった。学生が参加しやすい日時であることを優先し、平日の午後開催であったが、一般の方からも参加いただくことができ、関心が高い研修内容であったことを確認できた。第2回と第3回は、他県在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、専門はな研修を行うことができた。第4回は山形県在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、・第2回と第3回は、他県在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、・第2回と第3回は、他界在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、・第2回と第3回は、他界在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、・第2回と第3回は、他界在住の障がい当事者のお話を聞くことができた。これらの研修と踏まえ、降がい理解と関るタイズ形式参加型掲示物を作成し、人		池田彩乃	地域教育文化学部児童教育コース 准教授					
連携して活動を行った プラットフォーム加盟機関名  本学学生と一般市民対象のインクルーシブ防災をテーマとする公開研修会を開催した。避難所運営 模擬体験と障がい当事者から被災時の体験や今後起こりうる災害発生時の困りごとについて話を聞き、その後研修を受講した学生によるインクルーシブ防災啓発掲示物を作成した。 ・研修会(全4回)。 (1)避難所運営ゲーム体験(ファシリテーター:石垣和恵) (2)視覚障がい者のニーズを聴く(講師:相羽大輔 コーディネーター:池田彩乃) (3)運動障がい者のニーズを聴く(講師:迫田拳 コーディネーター:池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師:小松幸悦 コーディネーター: 池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く (講師:小松幸悦 コーディネーター: 市番順子)・インクルーシブ防災啓発用掲示物作成 研修会受講学生5名が研修内容を反映させて掲示物を作成し、小白川キャンパス構内に掲示した。 《実施した効果》 研修会は各回10ー14名の参加者があった。学生が参加しやすい日時であることを優先し、平日の午後開催であったが、一般の方からも参加いただくことができ、関心が高い研修内容であったことを確認できた。第2回と第3回は、他県在住の講師からオンライン参加していただくことができ、専門的な研修を行うことができた。第4回は山形県在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、地元の防災の現状と課題を把握することができた。 これらの研修を踏まえ、障がい理解と防災の基礎理解を図るクイズ形式参加型掲示物を作成し、人		有海順子	障がい学生支援センター 准教授					
連携して活動を行った プラットフォーム加盟機関名  本学学生と一般市民対象のインクルーシブ防災をテーマとする公開研修会を開催した。避難所運営 模擬体験と障がい当事者から被災時の体験や今後起こりうる災害発生時の困りごとについて話を聞き、その後研修を受講した学生によるインクルーシブ防災啓発掲示物を作成した。 ・研修会(全4回)。 (1)避難所運営ゲーム体験(ファシリテーター:石垣和恵) (2)視覚障がい者のニーズを聴く(講師:相羽大輔 コーディネーター:池田彩乃) (3)運動障がい者のニーズを聴く(講師:迫田拳 コーディネーター:池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師:小松幸悦 コーディネーター: 池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く (講師:小松幸悦 コーディネーター: 市番順子)・インクルーシブ防災啓発用掲示物作成 研修会受講学生5名が研修内容を反映させて掲示物を作成し、小白川キャンパス構内に掲示した。 《実施した効果》 研修会は各回10ー14名の参加者があった。学生が参加しやすい日時であることを優先し、平日の午後開催であったが、一般の方からも参加いただくことができ、関心が高い研修内容であったことを確認できた。第2回と第3回は、他県在住の講師からオンライン参加していただくことができ、専門的な研修を行うことができた。第4回は山形県在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、地元の防災の現状と課題を把握することができた。 これらの研修を踏まえ、障がい理解と防災の基礎理解を図るクイズ形式参加型掲示物を作成し、人								
連携して活動を行った プラットフォーム加盟機関名  本学学生と一般市民対象のインクルーシブ防災をテーマとする公開研修会を開催した。避難所運営 模擬体験と障がい当事者から被災時の体験や今後起こりうる災害発生時の困りごとについて話を聞き、その後研修を受講した学生によるインクルーシブ防災啓発掲示物を作成した。 ・研修会(全4回)。 (1)避難所運営ゲーム体験(ファシリテーター:石垣和恵) (2)視覚障がい者のニーズを聴く(講師:相羽大輔 コーディネーター:池田彩乃) (3)運動障がい者のニーズを聴く(講師:迫田拳 コーディネーター:池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師:小松幸悦 コーディネーター: 池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く (講師:小松幸悦 コーディネーター: 市番順子)・インクルーシブ防災啓発用掲示物作成 研修会受講学生5名が研修内容を反映させて掲示物を作成し、小白川キャンパス構内に掲示した。 《実施した効果》 研修会は各回10ー14名の参加者があった。学生が参加しやすい日時であることを優先し、平日の午後開催であったが、一般の方からも参加いただくことができ、関心が高い研修内容であったことを確認できた。第2回と第3回は、他県在住の講師からオンライン参加していただくことができ、専門的な研修を行うことができた。第4回は山形県在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、地元の防災の現状と課題を把握することができた。 これらの研修を踏まえ、障がい理解と防災の基礎理解を図るクイズ形式参加型掲示物を作成し、人								
プラットフォーム加盟機関名  《活動内容》 本学学生と一般市民対象のインクルーシブ防災をテーマとする公開研修会を開催した。避難所運営模擬体験と障がい当事者から被災時の体験や今後起こりうる災害発生時の困りごとについて話を聞き、その後研修を受講した学生によるインクルーシブ防災啓発掲示物を作成した。・研修会(全4回)。 (1)避難所運営ゲーム体験(ファシリテーター:石垣和恵) (2)視覚障がい者のニーズを聴く(講師:相羽大輔 コーディネーター:池田彩乃) (3)運動障がい者のニーズを聴く(講師:追田拳 コーディネーター:池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師・・小松幸悦 コーディネーター: 有海順子)・インクルーシブ防災啓発用掲示物作成研修会受講学生5名が研修内容を反映させて掲示物を作成し、小白川キャンパス構内に掲示した。 《実施した効果》 研修会は各回10ー14名の参加者があった。学生が参加しやすい日時であることを優先し、平日の午後開催であったが、一般の方からも参加いただくことができ、関心が高い研修内容であったことを確認できた。第2回と第3回は、他県在住の講師からオンライン参加していただくことができ、専門はな研修を行うことができた。第4回は山形県在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、地元の防災の現状と課題を把握することができた。 これらの研修を踏まえ、障がい理解と防災の基礎理解を図るクイズ形式参加型掲示物を作成し、力	活動名	災害時要配慮者(児)のニーズを踏まえた防災教育の構築						
本学学生と一般市民対象のインクルーシブ防災をテーマとする公開研修会を開催した。避難所運営模擬体験と障がい当事者から被災時の体験や今後起こりうる災害発生時の困りごとについて話を聞き、その後研修を受講した学生によるインクルーシブ防災啓発掲示物を作成した。・研修会(全4回)。 (1)避難所運営ゲーム体験(ファシリテーター:石垣和恵) (2)視覚障がい者のニーズを聴く(講師:相羽大輔 コーディネーター:池田彩乃) (3)運動障がい者のニーズを聴く(講師:迫田拳 コーディネーター:池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師:小松幸悦 コーディネーター: 治田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師:小松幸悦 コーディネーター: 有海順子)・インクルーシブ防災啓発用掲示物作成 研修会受講学生5名が研修内容を反映させて掲示物を作成し、小白川キャンパス構内に掲示した。 《実施した効果》 研修会は各回10-14名の参加者があった。学生が参加しやすい日時であることを優先し、平日の午後開催であったが、一般の方からも参加いただくことができ、関心が高い研修内容であったことを確認できた。第2回と第3回は、他県在住の講師からオンライン参加していただくことができ、専門はな研修を行うことができた。第4回は山形県在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、地元の防災の現状と課題を把握することができた。		山形県教育委員会(特別支援教育課)						
	活動報告	本学学生と一般市民対象のインクルーシブ防災をテーマとする公開研修会を開催した。避難所運営 模擬体験と障がい当事者から被災時の体験や今後起こりうる災害発生時の困りごとについて話を聞き、その後研修を受講した学生によるインクルーシブ防災啓発掲示物を作成した。 ・研修会(全4回)。 (1)避難所運営ゲーム体験(ファシリテーター:石垣和恵) (2)視覚障がい者のニーズを聴く(講師:相羽大輔 コーディネーター:池田彩乃) (3)運動障がい者のニーズを聴く(講師:迫田拳 コーディネーター:池田彩乃) (4)聴覚障がい者のニーズを聴く(講師:小松幸悦 コーディネーター:有海順子)・インクルーシブ防災啓発用掲示物作成 研修会受講学生5名が研修内容を反映させて掲示物を作成し、小白川キャンパス構内に掲示した。 《実施した効果》 研修会は各回10-14名の参加者があった。学生が参加しやすい日時であることを優先し、平日の 午後開催であったが、一般の方からも参加いただくことができ、関心が高い研修内容であったことを確認できた。第2回と第3回は、他県在住の講師からオンライン参加していただくことができ、専門的な研修を行うことができた。第4回は山形県在住の障がい当事者のお話を聞くことができ、地元の防災の現状と課題を把握することができた。						

実施スケジュール	《スケジュール》 I. 研修会 第1回 10月30日(月 第2回 11月13日(月 8 教員2) 第3回 11月24日(金 生6名 教員2名) 第4回 12月4日(月) 生7名 教員3名) 2. インクルーシブド 12月-2月	)   6 : 20 - 17 : 50 2)   4 : 40 -   6 : 10   16 : 20 -   7 : 50	) 視覚障 ) 運動障 聴覚障か	がい者の二がい者の二	ーズを聴く	参加者13 参加者83	3名(一般3 学生 名(一般1名 学	
	合計 100,000	合計 100,000					円	
	(内訳)	(品名·使途 他)	(数)	×	(単価)	=	(金額)	
支援金の用途報告	避難所運営ゲーム	要配慮者バージョン	I	×	18100	=	18,100	
	座談会運営	講師謝金	3	×	5,568	=	16,704	
	座談会運営	手話通訳謝金・送料	ı	×	5,120	=	5,120	
	研修資料(書籍)		1	×	46,722	=	46,722	
	研修資料(DVD)	「逃げ遅れる人々」「星に語り て」+振込手数料	1	×	8,294	=	8,294	
	ラミネートフィルム	A3判	1	×	3,952	=	3,952	
	蛍光カラーシール他	蛍光カラーシール、カードリン グ、プッシュピン	7	×	110	=	770	
	文房具	ポストイット、ク リップ	ı	×	338	=	338	
次年度の計画について	令和6年度は同テーマ 中学校、特別支援学校					を図るとと	さもに、小学校、	
本事業へのご意見・要望								
活動に関するHPや情報がございましら、URLの添付をお願いいたします								

## Ⅰ この報告書はA4版表裏Ⅰ枚以内で作成の上、メールに添付して提出してください。

問い合わせ先:山形大学総務部総務課社会共創推進事務室 TEL:023-628-4615 MAIL:yu-shakaikyousou@jm.kj.yamagata-u.ac.jp